原　慶明：日本藻類学会第23回大会（山形）を振り返って

1999年3月28，29，30日の3日間，山形大学小白川キャンパスにおいて，標記の大会を開催しました。2年前に学会事務局から「この大会を」との問い合わせに，山形大学で引き受けられるかどうか危惧いたしました。大会会長をおたのみする高橋永治先生と相談の結果，とにかくお引き受けすることにし，その旨回答いたしました。ところが，下田大会に参加して，会場の豪華さと行き届いた大会運営を目にして，再び満足いただける大会ができるか危惧しました。折りも折り，たよりにしていた山形大学関係の学会員である日野修次氏が山形大会当日に他の学会からシンポジウムの招待講演を受け，大会期間中は留守になるとのこと，さらには日本植物生理学会が仙台で同時期に開催されるため，大会常連の片岡博尚氏の不参加（総会議長をお願いするつもりでした）を覚悟しなければならいことなど，はじめから苦慮の連続でした。

下田大会の懇親会で，大会会長の横浜先生および庶務の青木優和氏から下田大会の備品や名簿等の譲り受けができること，池原宏二氏と斉藤宗勝氏から開催に全面的に協力したいとの申し出があり，勇気づけられるとともに開催に向けての展望が開けました。これをきっかけに，その後は好転が続きました。大学の同僚の菱沼佑氏を学会員に誘い，山形県テクノポリス財団研究員として就職した横山亜紀子氏とともに庶務，会計関係のとりまとめを全面的に担当していただき，さらに大学生協や厚生会から宿泊や懇親会，芋煮会などをトータルで引き受けても良いとの申し出があり，ようやく開催準備の目処が立ちました。

参加者200名，講演題数80を目安とし，大会企画を極力抑え，できるだけシンプルな運営を心がけて実施に踏み切りました。また，東京から新幹線で3時間弱とはいえ，交通の便が必ずしも良いわけではないので，日程には熟慮しました。その結果，これまでのように2日間2会場（展示発表含む）から，同じ2泊していただくなら3日間2会場（会場設営に人手を割けないこと，および大きな学会では口頭発表の機会が減少していることから全て口頭発表にした）とした方が良いと判断しました。従って，初日は午後から講演を開始し，最終日は午前中に講演を終了することにしました。会期は大学の行事と会場設営の日程を考慮すれば自動的に決まりますので，実際には下田大会の時には頭の中でほぼ確定していました。大会の全体構想：初日の午前中に一般市民を主対象とする公開講演会「山形県が生んだ2人の偉大な藻類学者」を千原光雄，安部守両先生に，大会2日目に特別シンポジウム「花の遺伝子から見た藻類の世界，藻類の世界から見た原生生物の世界」を長谷部光泰，中山剛両氏に依頼すること等，も概ねその時点でできあがっていました。

大会前日の編集委員会および評議員会を開催するに当たり，天候の急変が我々の出鼻を挫きました。前日までの好天が続くことを信じ，予約していた会場の臨時暖房（ガスストーブを借り受ける計画）を断り，その予算を全て懇親会につぎ込むことにしました。両委員会にご参加の先生方には雪混じりの底冷えのする室内で長時間の会議を余儀なくさせてしまいました。翌日の午後の講演の演者はじめ参加の会員諸氏にも寒くつらい思いをさせてしまいました。お詫び申し上げます。

山形大学理学部の共催を受け，会場も昨年4月にできたばかりの先端科学実験棟大講義室を提供していただき，公開講演会を挙行いたしました。これまでの講

平成11年(1999年)3月19日(金曜日)

山形新聞

世界リードした藻類学者

28日、山大で公開講演

酒田出身の故山内繁雄氏

輝く業績にスポット

90年前、米国で心血注ぐ

山形大学理学部の共催で今月二十八日開催される日本藻類学会の第二十三回大会（そうる）期間中、酒田出身で世界的な藻類学者・山内繁雄氏（明治四十八年生まれ）の業績を紹介する公開講演会が行われる。明治時代に活躍し、シカゴ大学で教鞭を執った山内氏の研究は現在も教科書に掲載されており、日本の藻類学の基礎を築いた偉大な存在。学会関係者は、地元・山形で約九十年前の心血を注いだ研究に光が当てられる。

講演を担当するのは日本藻類学会の会長・千原光雄氏（日本植物学会の会長より）と、日本植物生理学会の会長・安部守氏。大会二日目に講演する。

山内繁雄は明治四十五年（一九一二年）、酒田市に生まれた。二歳で親戚の大阪市にあった八尾神社宮司の山内家に養子に入った。旧鶴岡市第一尋常小学校（現鶴岡南高校）から東京高等師範学校（東京教育大、現筑波大学）に進み、卒業後三年で師範学校になった。二年後に米国のシカゴ大学に留学、主として植物

講演は広瀬弘幸氏によると、次の三点が中心になる。①山内氏の研究業績を中心とした日本藻類学の歴史②山内氏の人柄と人間関係③山内氏の研究と現代の藻類学の課題。

山内氏の業績は、藻類の生理学、生態学、植物形態学、細胞学、植物生理学を研究対象とする藻類学者として世界的に高く評価されている。英文で発表された研究内容は、国内、ヨーロッパ、米国で出た二十世紀を代表する藻類学者の一人だと言われた千葉氏はその時代を「記録ラッシュ」の生涯と位置づけ、「藻類ムチャクチャ研究」と称した。

はじめ米国で活躍し、その後、日本に戻り、一九七二年、東京で亡くなった。

山内氏の業績調査を依頼された研究者という縁で今回の講演をすることになった。

山内はその後、東京高等師範の教授に迎えられ、多くの業績を残したが、再びシカゴに戻り、教授として研究に没頭した。

講演は、酒田出身の故・山内繁雄氏の業績を中心とした藻類学の歴史を明らかにする。

1999年3月19日付の山形新聞に掲載された公開講演会の記事。

演会の反省として，いつも講演時間の不足が指摘されているので，この講演会では余裕を持った時間配分をしたつもりです。両先生にはすばらしい講演をしていただき，企画者としてこの紙面を使って御礼申し上げる次第です。講演会の内容は翌日の地元の新聞にも掲載され（図参照），反響の大きさを伺い知ることができました。

一般講演の題数と参加者は日本植物生理学会と会期が重なったこともあって，例年よりも少なく，予定の80題と200名を僅かに割り込みましたが，最終日の午後を使うことなくプログラム編成ができたことは幸いでした。当日はスライドプロジェクターの故障などで，若干の時間の遅延がありましたが，大過無く遂行できました。これも講演，参加された皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。2日目午後の特別シンポジウムでは藻類に関係したエポックメイキングな話題を取り上げました。長谷部，中山両講演者の明快で熱の入った講演はもとより川井（英文誌），堀口（和文誌）両編集長の名進行のおかげで，大変盛り上がったシンポジウムになったのではないかと自負しております。特に長谷部先生には招待申し上げたにもかかわらず，十分おもてなしができませんでした。逆に，先生から「藻類学会は若い方の参加が多く，活発でうらやましいですね」との感想をいただきました。

池原氏の提案で海藻展を開催しました。横浜先生および斉藤宗勝氏からも海藻関係の書籍やTシャツなどのgoods販売（売上金の一部を学会開催の補助にとの申し出がありましたが，幸い資金的には円滑に運営できましたので，補助はご遠慮申し上げました）のご協力を得ることができ，加えて片山舒康氏からも海藻・プランクトン絵はがき，ビデオ等の販売また寺脇先生のお口添えもあり，田中博氏から自著「ひろしまの海藻」の販売の申し入れなどを受け，学会に花を添える企画が豊富に揃いました。海藻展には山形県水産試験場の井岡氏はじめ多くの方々から物心両面の援助をいただきました。千原先生，鰺坂氏ほか多くの方々より山形県の海藻標本の展示には，貴重なご教示，ご意見をいただくことができ，当事者の院生，学生には思いもかけない贅沢な勉強とお教えを受ける機会をうることができました。この他にも，藻類関係の書籍の見本と案内書（申込書付き）および山形県の名所案内パンフレットの展示を実施しました。内田老鶴圃，裳華房，東海大学出版会の諸社と山形県コンベンションビューローにご協力いただきました。記して御礼申し上げます。

懇親会でのひとこま。

講演の日程を変更したことで，大会初日の晩に季節はずれ（実際は9月から）ではありますが山形名物の芋煮会で参加の皆様を歓迎することができました。講演会場の寒さで冷え切った体は芋煮の美味さを味わう絶好の状態ではないかと山形の我々も再認識いたしました。いかがでしたか？日本酒の準備を怠ったことが悔やまれました。

懇親会は下田大会と比較されないためにも，豪華さを追求するよりあくまでも実質的であるよう心がけました。会場設営と料理を担当してくれた山形大学厚生会が我々の意図を十分汲み上げてくれたこと，さらに筑波大学の藻類学会（第6回，1982年）の懇親会を筑波大学の厚生会が担当し，その際に今回の指揮を執ったマネージャーが応援に行った経緯から，今回は筑波大学厚生会からの応援をうけ，予想以上の「豪華さ」を演出してくれました。ただ，ここでも銘酒どころ山形にもかかわらず，準備した日本酒が少なく，配慮不足を露呈してしまいました。会は神谷氏（神戸大）の司会のもと終始和気あいあいとした雰囲気で進行し，次大会開催の長崎大学を代表して飯間氏の歓迎の言葉と長崎での再会を期して，無事閉会することができました。

翌日の講演終了後から蔵王で挙行しましたエクスカーションも天候に恵まれ，十分「雪上藻探索！！」を楽しまれたと参加者およびガイドした院生から報告を受けております。

最後に，公開講演会の共催をお引き受けくださった山形大学理学部および理学部長鬼武一夫先生に感謝の意を表します。

（日本藻類学会第23回大会準備委員長，〒990-8560
山形市小白川町1-4-12 山形大学理学部生物学科）